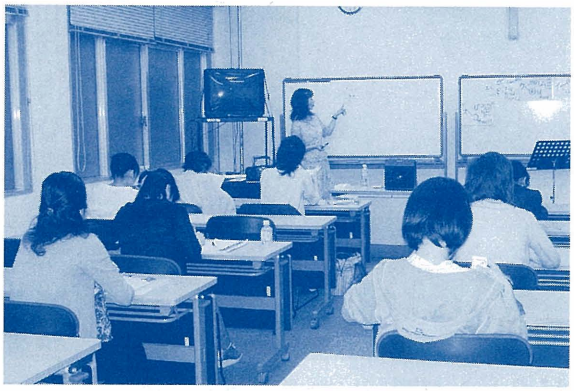
第20号
平成19年２月

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

1．富山大学の大学開放：地域社会に対する学習機会の拡大

新大学としての発足後、富山大学の公開講座や公開授業は、全国の国立大学と比較してどのくらいの水準にあるのでしょうか。文部科学省の調べと比較して、２年刻みに本学の実施数平均の推移をみてみると、図のようになっています



公開講座風景

これをみると、ほぼ一貫して平均値を上回っており、新大学発足により現在は全国でもトップクラスの開講数を実現していることがわかります。公開講座は、各学部・センター教職員の任意で実施される事業ですが、大学再編等の事情で時間的なゆとりができたわけでは決してない中、このような飛躍的な進展が見られることは注目すべきところがあります。ぜひとも、幅広い公開講座の継続的実施が期待されます。

さて、71もの公開講座の風景をここですべて紹介することはできませんが、いくつかアンケート結果をピックアップして様子をお知らせしたいと思います。

▲今年で三年目ですが、楽しんで続けています。毎週時間が経つのがとても早く、もう最終日が来たかと少しさびしい気がします。(語学講座)

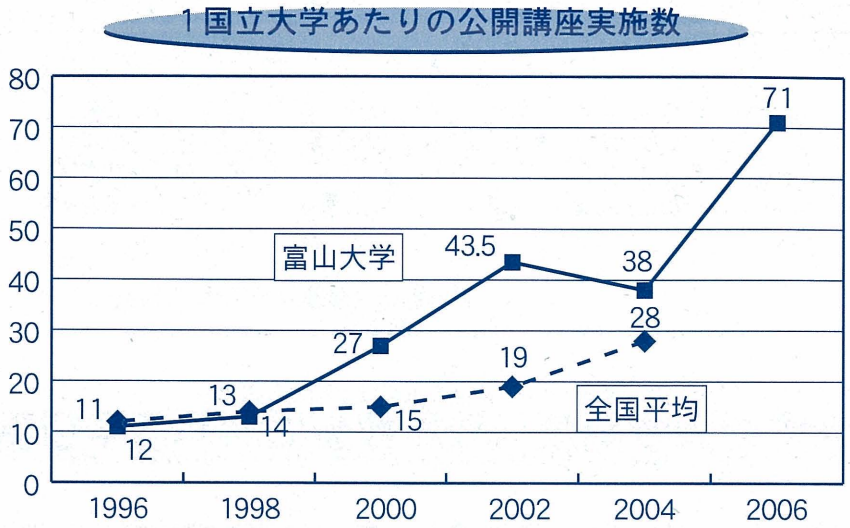
▲形のつくりかた、イメージのしかたなど、わかりやすかったです。これからも続けてください。(ものづくり講座)

▲講師の説明が非常にわかりやすかった。逆に１回１時間半では短いと感じるほどで、もっと踏み込んだテーマも聞いてみたいと思った。(教養講座)

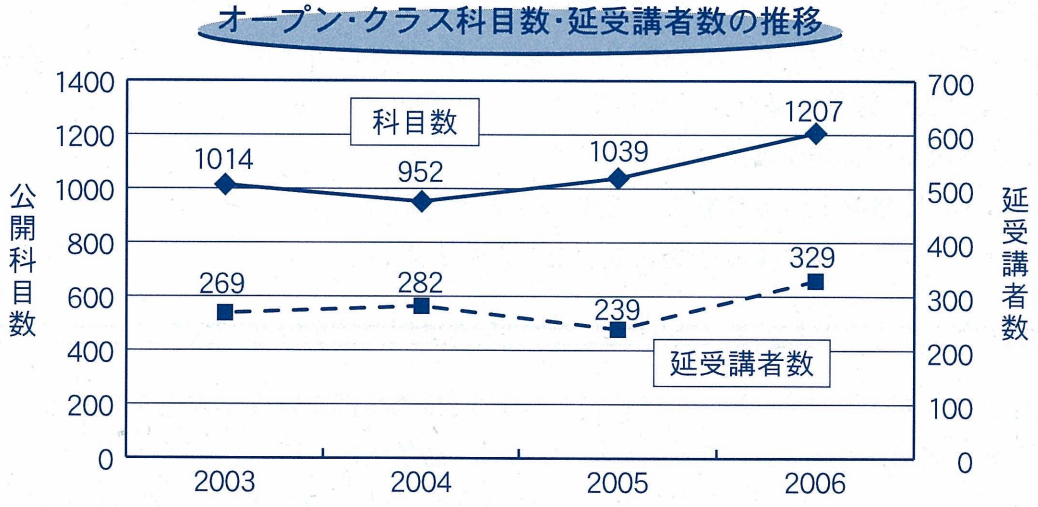
▲ネットで学習するe-learning的な部分と組み合わせた学習方法は面白かったです。(ＩＴ講座)

▲できていない部分、できている部分を適切に指導していただき、面白く、楽しく感じることができた。(健康・スポーツ講座)



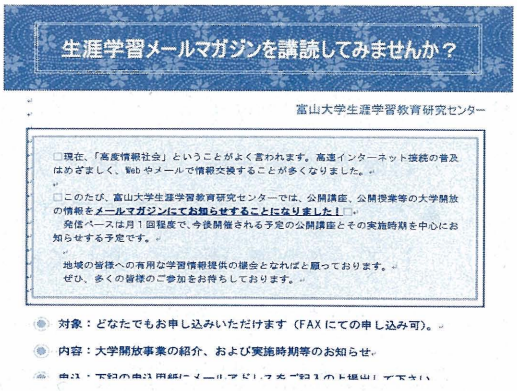


一方、オープン・クラス（公開授業）は、正規学生向けの授業を一般市民に公開する制度であり、こちらも担当教員の任意で公開されるものです。全国の国立大学のうち、生涯学習系センターを設置している大学で実施されている公開授業は平均しておおよそ年間100科目弱ですが、富山大学オープン・クラスは、平成18年度でみると、合計1207科目もの授業を公開し、300人もの一般市民が学生と共に机を並べています。公開授業は、一般市民向けに特別な準備を行う必要はなく、第１回目の授業試聴と打ち合わせで受講することが適切かどうか判断する機会があり、特別な事情（高度な専門性、危険を伴う実験・実技など）がない限り公開することが望ましいと考えます。ぜひ、公開可能な授業を教務委員会等を通じてオープン・クラスにエントリーしていただくようお願いいたします。



2．生涯学習メールマガジンの発信

本センターでは、新たなＰＲ活動として生涯学習メールマガジン「e-News@富山大学」を発行することになりました。現在、メールは中・高校生からシニアまで、急速な拡大をとげており、とくにビジネス・シーンでは必須のものとなっています。チラシやパンフレットの郵送（いわゆるＤＭ）は予算的な厳しさが伴いますし、Web上で公開したとしても、閲覧者の自発性がなければ無視されてしまいます。ところが、メールマガジンは（最初に登録してもらう必要はありますが）、個々人に


生涯学習メールマガジンを講読してみませんか？

富山大学生涯学習教育研究センター

□現在、「高度情報社会」ということがよく言われます。高速インターネット接続の普及はめざましく、Webやメールで情報交換することが多くなりました。

□このたび、富山大学生涯学習教育研究センターでは、公開講座、公開授業等の大学開放の情報を**メールマガジンにてお知らせすることになりました！**

発信ベースは月１回程度で、今後開催される予定の公開講座とその実施時期を中心にお知らせする予定です。

地域の皆様への有用な学習情報提供の機会となればと願っております。
ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- 対象：どなたでもお申し込みいただけます（FAXにての申し込み可）。
- 内容：大学開放事業の紹介、および実施時期等のお知らせ。

直接にメッセージを届けることができるので、他にはない有力な面があると考えられます。

現在は"Vol.１"を発行した直後ですが、配信を継続していく中で効果があがってくると期待されます。

もちろん、学内の教職員・学生の皆様にもご講読いただければこの上ありません。ご希望の方は本センターまでe-mailアドレスをお知らせいただければ、ただちに配信いたします。お申し込みをお待ちしております。

３．ついに１万人突破！：10周年・富山大学親子フェスティバル2006

前年度のフェスが終わったとき、延べ来場者数１万人に「あと一息」という数字を見て驚いたのは記憶に新しいところです。「来年はどのくらいの方がお見えになるのか？」と期待がふくらんでいたところですが、今年のフェスは、なんと昨年比1.5倍増の14691人！と予想外の来場者数をはじきだしました。いったいこんな狭いキャンパスに１万５千人もの人が入りきるのか？と不思議でしたが、事実は事実、やはり底知れない魅力をもった行事だと実感させられました。子どもたちの元気な様子もさることながら、２日間（それ以前の長い準備期間、終了後の後片付けも含め）精力的に活動した学生諸君の姿が印象的でした。



親子フェスティバル風景

来場者の何人かの方におうかがいしたところ…

- はじめて参加しました。たくさんの人出でびっくり！キーホルダーやお菓子のアトリエが楽しかった。（お子さん）
- 10周年とのことですがはじめて参加しました。子どもが喜ぶと思って巨大迷路に行ったら１時間以上待ちでした。もっとスムーズにならないものでしょうかね。
- 先生を目指している方が子どもに接する機会を持つことはとてもすばらしいことだと思いました。

４．北陸地区国立大学連携まちなかセミナー：今年は富山大学主幹で実施

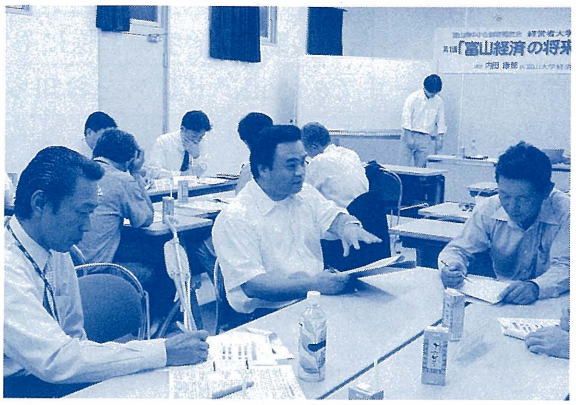
去る11月18日（土）、北陸地区国立大学連携「まちなかセミナー」が開催されました。この講座は、北陸地区の国立大学が連携して、所属大学の所在地とは異なる地域に講師を派遣して「知の交流・活性化」を目指そうとする企画です。富山地区でのテーマは、「北陸発の“子ども学”」と題し、原田克巳先生（金沢大学教育学部附属教育実践総合センター・講師）、氏家靖浩先生（福井大学教育地域科学部附属教育実践研究総合センター・助教授）のお二人にご講演をいただく機会を得ました。



まちなかセミナー風景

近年の子どもの成長発達を心配する声は高く、子どもの心理やその発達援助について有効な取り組みの紹介がなされ、盛況のうちに幕を閉じました。

5．第Ⅴ期経営者大学


経営者大学風景

昨年の９月26日(火)から11月27日(月)にかけて、恒例の経営者大学(第Ⅴ期)が実施されました。今回は、経営者として必要なリーダーシップ論、コミュニケーション論に加え、富山地域と大都市圏を結ぶ交通機関の整備が与える経済的影響、ならびに「2007年問題」などの時事的な問題を加え、より刺激的な講座となりましたアンケート結果を見ると多くの人が「大変参考になった」とこたえており、「ケーススタディが実践的でよい」「日常の現象を理論的に整理する意味で、専門家から学ぶことは必要だと感じた」などの意見もみられました。どの講座も大好評のうちに幕を閉じることができといえるでしょう。

ご担当いただいた先生方は以下の通りです。

	講師(所属)	テーマ
９月26日(火)	内田康郎(経済学部・助教授)	富山経済の将来展望
10月10日(火)	内田康郎(経済学部・助教授)	スモール企業の経営戦略
10月26日(木)	馬駿 (極東地域研究センター・助教授)	2007年問題の影響、高齢者雇用、若年層の就業意識
11月13日(月)	黒川光流(人文学部・助教授)	職場における、自立的な学びとリーダーシップ
11月27日(月)	稲垣応顕 (人間発達科学研究実践総合センター・助教授)	心をつなぐコミュニケーション

6．会議報告

●第28回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

日　時：平成18年11月30日(木)～12月１日(金)
場　所：別府亀の井ホテル(大分県別府市)
◇全体会「生涯学習の推進について」(文部科学省講演)
◇分科会

●平成18年度第２回生涯学習教育研究センター運営委員会

日　時：平成18年10月20日(金)13:00～
場　所：生涯学習教育研究センター会議室
◇平成18年度事業報告及び平成19年度事業計画

●平成18年度第１回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会

日　時：平成18年10月20日(金)14:10～
場　所：生涯学習教育研究センター会議室
◇平成19年度公開講座実施計画についての依頼

●平成18年度第２回生涯学習教育研究センター公開講座専門委員会

日　時：平成19年１月19日(金)10:30～
場　所：生涯学習教育研究センター会議室
◇平成19年度公開講座実施計画(案)について

発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960